

平成25年度 教科に関する研究
研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価」

外国語活動・外国語（英語）

自ら考え表現する外国語活動及び外国語（英語）科学習指導と評価
－目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して－



目 次

1	主題について	1
2	授業研究	
	【授業研究 1】	
	小学校第 6 学年における自ら考え表現する外国語活動学習指導と評価 －児童・ALT・HRTと目指す姿の共有化を図る振り返りカードの活用を 通して－ 〈単元名〉 小学校第 6 学年「Lesson 3 I can swim.」	5
	【授業研究 2】	
	中学校第 2 学年における自ら考え表現する外国語（英語）科学習指導と評価 －聞き手を意識したスキット活動における、目指す生徒の姿を明確にした授 業づくりを通して－ 〈単元名〉 中学校第 2 学年「オリジナルスキットを作成し、楽しみながら 演じよう」	12
	【授業研究 3】	
	高等学校第 2 学年ライティングにおける自ら考え表現する外国語（英語）科 学習指導と評価 －学習到達目標を意識したスピーチ活動における、目指す生徒の姿を明確に した授業づくりを通して－ 〈単元名〉 高等学校第 2 学年「Lesson 3 Anything to Drink?」	18
3	研究のまとめ	24

外国語活動・外国語（英語）科研究主題

自ら考え表現する外国語活動及び外国語（英語）科学習指導と評価

一目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して一

1 主題について

(1) 外国語活動・外国語（英語）科の目標について

小学校外国語活動及び中学校外国語（英語）科の目標は平成20年3月の学習指導要領において、また高等学校外国語（英語）科の目標は平成21年3月の学習指導要領において、次のように示されている。

「小学校外国語活動」 平成20年3月

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

「中学校外国語」 平成20年3月

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

「高等学校外国語」 平成21年3月

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

（下線部は本資料作成者による。）

小学校では、音声面における「聞くこと」及び「話すこと」という活動を通して「コミュニケーション能力の素地を養う」ことを目標としている。その素地は、中・高等学校で目指すコミュニケーション能力を支えるものである。これを踏まえ、中学校では、「聞くこと」及び「話すこと」に加え、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に指導し、「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことを目標としている。高等学校では、中学校における学習を基礎として、4技能の更なる向上を図り、「コミュニケーション能力を養う」ことを目標としている。これらの目標を達成するために、中・高等学校において、「読むこと」や「聞くこと」を通して児童生徒が思考・判断し、考え、「書くこと」や「話すこと」を通して表現する力の育成が求められている。

(2) 研究の方向性

平成21年度の研究では、小学校においては、インタビューシート等の工夫を手立

てとして思考場면을創出し、児童が思いや考えを表現する活動を試みた。中・高等学校では、インフォメーションギャップ（情報格差）、チョイス（言語材料の選択）、インタラクション（相互交流）というコミュニケーション活動の基本要素を盛り込んだ活動を通して、思考力・判断力・表現力を育む場면을創出することを試みた。平成23年度の研究では、小学校においては、「自己紹介活動」や「行ってみたい国の紹介活動」をペアやグループで行うことを通して、自分の思いや考えを表現し合う活動を試みた。中学校においては、見たり読んだりして理解した内容について考え、既習の言語材料で表現することを通して、思考力・判断力・表現力を育む取組を試みた。高等学校においては、リテリング活動を行い、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める取組を試みた。以上のことから、平成21、23年度を取組は思考力・判断力・表現力を育成する上で効果的であった。

平成24年度に実施した「外国語活動における評価及び外国語（英語）科における思考力・判断力・表現力を育むための学習指導と評価についての実態調査」の結果からは、小・中・高等学校ともに「適切な評価規準の設定」が課題であるとの回答が最も多く、小学校では61.6%、中学校では52.9%、高等学校では71.5%（中・高等学校は「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」への回答の平均）を占めた。

これらを踏まえ、本研究では目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して、自ら考え表現する外国語活動及び外国語（英語）科学習指導と評価の実践的研究を行う。これまでの研究の成果を踏まえた学習指導において、児童生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視していく。そこで、児童生徒の実態に即した学習到達目標を設定し、目標に基づいた評価の指標を作成する。そして、学習到達目標及び評価の指標から遡って学習課題を設定し、学習過程において児童生徒の学習状況を適切に評価する。さらに、評価を事後の指導に生かすことにより、指導と評価の一体化を図り、自ら考え表現する児童生徒を育みたいと考える。

(3) 主題に迫るために

ア 小学校では「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、中・高等学校では「表現の能力」と「理解の能力」の観点での学習到達目標に基づいた評価の指標の作成

イ 評価の指標を用いた、指導と評価の一体化を図る工夫

この2点を踏まえ、具体的な手立てを講じた授業研究を行う。

資料 外国語活動における評価及び外国語（英語）科における思考力・判断力・表現力を育むための学習指導と評価についての実態調査（数値は％）

(1) 調査期間

平成25年3月1日から平成25年3月14日

(2) 調査対象

県内公立小学校549校，公立及び県立中学校232校，県立高等学校100校（太田第二高等学校里美校を含む），県立中等教育学校1校

※設問1は小学校が，設問2～5は中学校及び高等学校が回答

(3) 回答総数

568件（小学校336件，中学校139件，高等学校93件）

(4) 回収率

64.4％

設問1 外国語活動の評価を適切に行う上で課題となっていることを次の中から選び，回答してください。（複数回答可）

	小	中	高	総数
適切な評価規準の設定	61.6			61.6
評価規準を踏まえた学習課題の設定	29.6			29.6
評価計画の作成	25.8			25.8
評価時期の設定	8.5			8.5
評価方法の工夫	56.6			56.6
評価結果のフィードバック	30.2			30.2
評価に係る教師間の共通理解	38.7			38.7
特にない	0.9			0.9
その他	1.5			1.5

「適切な評価規準の設定」が6割を超えている。また、「評価方法の工夫」も6割近くになっている。

設問2 「思考力・判断力・表現力」を育むための学習指導が適切に行われていますか。

	小	中	高	総数
そう思う		24.3	16.0	20.9
まあそう思う		70.0	63.8	67.6
あまりそう思わない		5.7	19.1	11.1
そう思わない		0.0	1.1	0.4

「思考力・判断力・表現力を育む学習指導が適切に行われている」状況を「そう思う」と「まあそう思う」を合わせると，中学校では9割を超え，高等学校では8割近くになっている。

設問3 「思考・判断・表現」の観点に係る「外国語表現の能力」についての課題を選んでください。（複数回答可）

	小	中	高	総数
適切な評価規準の設定		55.0	77.4	66.2
評価規準を踏まえた学習課題の設定		40.0	51.6	45.8
評価計画の作成		23.6	23.7	23.6
評価時期の設定		5.7	8.6	7.2
評価方法の工夫		51.4	51.6	51.5
評価結果のフィードバック		42.9	33.3	38.1
評価に係る教師間の共通理解		27.9	47.3	37.6
「おおむね満足、十分満足」と判断する具体的な例		24.3	20.4	22.4
テスト問題の工夫		33.6	40.9	37.2
特になし		0.7	0.0	0.4
その他		0.0	0.0	0.0

「適切な評価規準の設定」が総数で6割を超えている。高等学校においては8割近くになっている。「評価方法の工夫」が総数で5割を超えている。

設問4 「思考・判断・表現」の観点に係る「外国語理解の能力」についての課題を選んでください。（複数回答可）

	小	中	高	総数
適切な評価規準の設定		50.7	65.6	58.2
評価規準を踏まえた学習課題の設定		44.3	45.2	44.7
評価計画の作成		18.6	21.5	20.0
評価時期の設定		5.0	6.5	5.7
評価方法の工夫		46.4	37.6	42.0
評価結果のフィードバック		35.7	30.1	32.9
評価に係る教師間の共通理解		18.6	40.9	29.7
「おおむね満足、十分満足」と判断する具体的な例		23.6	17.2	20.4
テスト問題の工夫		32.9	50.5	41.7
特になし		2.9	4.3	3.6
その他		0.0	0.0	0.0

「適切な評価規準の設定」が中学校で5割を超え、高等学校で6割を超えている。

設問5 学習指導要領では、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することの重要性が述べられていますが、観点別学習状況の評価の観点である「外国語表現の能力」についての評価方法で取り組んでいることを、自由に記述してください。

パフォーマンス評価、エッセイライティング、手紙、グリーティングカード、課題作文、スペリングコンテスト、日記等における評価等が挙げられた。

2 授業研究

【授業研究1 小学校】

小学校第6学年における自ら考え表現する外国語活動学習指導と評価
ー児童・ALT・HRTと目指す姿の共有化を図る振り返りカードの活用を通してー

1 単元について

(1) 単元名 Lesson 3 I can swim. (Hi, friends! 2)

(2) 目標

- 「できる・できない」や「できるか」という表現を使いながら、英語での会話やゲームの中で、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 「can / can't」や「Can you～？」の表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- 自分ができることを表現したり友達ができることを聞いたりして、自己や他者への理解を深める。
(言語や文化に関する気付き)

(3) 教材観

本単元では、「can」を使って自分ができることを話したり、「友達ビンゴ」を通して友達ができることを尋ねたりする活動を行う。小学校外国語活動では、表現対象が自分のこと（1人称）、相手のこと（2人称）にとどまっている。ここでは、「～できる」友達、「〇〇名人」を学級全体に紹介しようということで、表現対象を3人称にも広げていきたい。

「can」を使う学習では、多くの動詞を用いて英語で話すことができる。「Hi, friends! 2」に掲載されている動詞だけでなく、和英辞典やオンラインの辞書も活用し、児童が表現したいと予想される動詞も取り入れる。会話の中で英語の言い方や発音が分からない際に、ジェスチャーや描いた絵を示しながら、「Can you～？」とすればよいことを伝え、コミュニケーションは言葉だけでないことを感じ取ることができるようにする。

(4) 児童の実態

児童は、5年生の時から外国語活動の授業を通して英語に慣れ親しんでいる。意識調査によると、授業が「とても楽しい」（72%）、「楽しい」（28%）となっており、外国語活動を楽しみにしていることが分かる。楽しい活動として、ゲームや歌、チャンツ、教師とのグッバイチャレンジ、インタビューを挙げている。難しい活動として、「言いたいことを英語で言うこと」や「うまく発音すること」を挙げている。そのような不安から実際にコミュニケーションを図るときに、つい日本語を使ってしまう場面も見られる。

本単元では、動詞もたくさん出てくるので、ジェスチャーゲームや動きを取り入れたチャンツなどを通して、コミュニケーションは言葉だけではないことを体感できるようにする。また、ビンゴというゲーム的な要素を取り入れた活動を行うことで、誰もが多くの友達とコミュニケーションを図ることができるようにし

たい。

(5) 指導計画（4時間扱い）

時	目標・主な活動	コ	慣	気	評価規準
1	動作を表す語や、「できる・できない」や「できるか」という表現を言えるようにしよう。 ・ポインティングゲームやジェスチャーゲームで動詞を知る。 ・Let's Listen で can, can't の表現を知る。		○		・「できる・できない」や「できるか」という表現を聞いたり言ったりしている。（行動観察） ・英語と日本語では、スポーツ名などの発音が違うことに気付いている。（行動観察、振り返りカード）
2	できるかどうかをたずねたり答えたりしよう。 ・Let's chant で Can you ~? と Yes, I can./ No, I can't. の表現に慣れ親しむ。 ・隣の席の友達へインタビューする。	○	○		・できるかどうかを尋ねたり答えたりしている。（行動観察） ・相手に伝わるように工夫しながら友達にインタビューしている。（行動観察・ビンゴシート・振り返りカード）
3	オリジナルな「友達ビンゴ」シートを作ろう。 ・Let's chant をジェスチャーをしながら行う。 ・ビンゴシートを作成する。	○			・辞書を使ったり、ALT に質問したりして動作を表現しようとしている。（行動観察・ビンゴシート・振り返りカード）
4 本時	「友達ビンゴ」をして、○○名人を紹介しよう。 ・オリジナルのビンゴシートを使って友達に質問をしたり答えたりする。 ・友達のできることを紹介する。	○			・ジェスチャーなどを交えながら、積極的に友達に伝えようとしている。（行動観察・ビンゴシート・振り返りカード）
表現 : I can / can't ~. Hiromi can ~. Can you ~? Yes, I can./ No, I can't.					
主な語彙 : play, swim, cook, ride, piano, recorder, basketball, soccer, baseball, badminton					

2 本時の授業

(1) 目標

- 「友達ビンゴ」を通してたくさんの友達と対話をし、○○名人を探し紹介する。
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

(2) 主題に迫るための手立て

ア 学習到達目標に基づいた評価の指標の作成

（卒業時の学習到達目標）

外国語の音声や表現に慣れ親しんだり外国や日本の言語や文化について体感したりしながら、コミュニケーションの楽しさ・大切さを感じられる児童



コミュニケーションへの関心・意欲・態度



（学年の到達目標）

外国語を用いてコミュニケーションを図ることに興味を持ち、目的に応じて工夫しながら、積極的に取り組もうとする。

（単元の到達目標）

「できる・できない」や「できるか」という表現を使いながら、英語での会話やゲームの中で、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする。

(本時の到達目標)

「友達ビンゴ」を通してたくさんの友達と対話をし、「〇〇名人」を探し紹介する。

(本時の評価規準)

ジェスチャーなどを交えながら、積極的に友達に伝えようとしている。

(本時の評価の指標)

日本語を使わずに、絵を示したり、ジェスチャーを交えたりして5人以上の友達にインタビューしている。

イ 指導と評価の一体化を図る工夫

(ア) 目指す姿の共有化 (児童・ALT・HRT・JTE)

小学校の外国語活動において、「目指す姿」を児童・ALT・HRTが共有することはとても難しい。今回は、児童用、ALT用、HRT用と3種類の「振り返りカード」をJTEが中心となって作成し、児童・ALT・HRTが目指す姿の共有化を図れるように試みる。

児童は、カードに明示されている目標と評価項目に基づいた「目指す姿」を理解する。ALTは、カードに示されている目標と活動内容の英訳に基づいた「目指す姿」を理解する。HRTは、カードに示されている目標と評価項目に評価規準と評価の指標を付け加えたものに基づいた「目指す姿」を理解する。さらに、HRTは授業中に課題提示をする際に、口頭で評価の指標を児童に伝えるようにする。

(イ) 課題設定の工夫

単元の最後に「友達ビンゴをして〇〇名人を紹介しよう」という課題を設定する。インタビュー活動とビンゴというゲーム的要素を取り入れた活動を行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を喚起する。また、インタビューした結果を基に、「〇〇名人」として友達のできることを紹介することで、英語を介して他者への理解を深める。

(イ) ビンゴシートへの指標の反映

ビンゴシートに評価の指標を記載することで、インタビューの活動中も児童が「目指す姿」を意識できるようにする。教師は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を評価する際に、観察だけでは限界があるため、このビンゴシートを事後分析し評価する。

(エ) グッバイチャレンジでのフィードバック

HRTとJTEは、毎時間振り返りの時間に、本時の表現を用いた質問を児童に行い、児童が答えられたらシールを渡して称賛する。本時では、**Can you ~?**で児童に自己紹介をしてもらったり、**Please tell me your friends.**などと発問し、ビンゴシートを見ながら「〇〇名人」を紹介してもらおう。

また、グッバイチャレンジを通して、本時の表現を振り返ったり、活動に積極的に参加できなかった児童へのフォローを行ったりする。

(3) 準備・資料

PC, プロジェクタ, ビンゴシート, 振り返りカード

(4) 展開

学習活動・内容	A L T	H R T・J T E ◎評価
<p>1 ウォームアップ</p> <p>(1) A L Tから名札を受け取り, 友達に渡しながらいいさつをする。 Hello, ○○○. This is your name card. Here you are.</p> <p>(2) あいさつをする。 It's July 17. It's fine.</p> <p>(3) チャンツをする。 Q : Can you play soccer? A : Yes, I can./No, I can't.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをしながら一人ずつ名札を渡して, 迎え入れる。 Hello/ Hi/Good morning. ・日付や天気を問う。 What's the date today? How's the weather? ・ジェスチャーを大きくしながら盛り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名札が読めない児童への支援をする。 ・児童と一緒にあいさつをする。 ・一緒にジェスチャーをしたり, 上手にジェスチャーをしている児童を称賛したりする。
<p>2 課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>友達ビンゴをして ○○名人を紹介しよう。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を示した後に本時の評価の指標を伝え, 意欲付けを図る。
<p>3 ACTIVITIES</p> <p>(1) 練習をする。 ・児童とA L T ・児童と児童 (ペア) ・Can you play~? Yes, I can./ No, I can't. ・Can you do this? (絵を示す, ジェスチャー)</p> <p>(2) 「友達ビンゴ」をする。 Q : Hello. Can you play soccer? A : Yes, I can.</p> <p>(3) 「○○名人」を紹介する。 I can't play kendama. Takashi can play kendama.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの児童とやりとりの手本をしてみせる。質問の仕方と答え方だけでなく, 言葉で表現ができないときの方法も示すようにする。 ・児童と一緒にインタビュー活動に参加する。 ・紹介した児童とともに紹介された児童にも「○○名人」と言い, 称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童に対して, 声をかけながら一緒に活動する。 <p>◎日本語を使わずに, 絵を示したり, ジェスチャーを交えたりして5人以上の友達にインタビューをしている。(行動観察, ビンゴシート, 振り返りカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍手で称賛する。
<p>4 振り返り</p> <p>(1) グッバイチャレンジをしながら振り返りカードに記入する。</p> <p>(2) 感想を発表する。 ・自分のこと ・友達のこと</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・H R Tは, Can you~?, J T Eは, 児童のビンゴシートを見ながら Who can ~?/ Please tell me your friends./ How many friends ~?と英語で質問する。答えられた児童にシールを渡す。
<p>5 あいさつ</p> <p>Thank you, Nick. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の取組を称賛しながらあいさつをする。 ・名札を受け取りながら, 個別にあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒にあいさつをして楽しい雰囲気の中で終わるようにする。

3 授業の実際

(1) 学習到達目標に基づいた評価の指標の作成について

卒業時の学習到達目標は、学習指導要領の目標や本校の教育目標、児童の実態に基づき作成した。それを基に、学年の到達目標、単元の到達目標、本時の到達目標という順序で設定していくことで、目指す児童の姿を明確にした目標や活動内容を取り入れた授業づくりを意識できるようになった。

これまでは、評価規準までの提示であったが、今回の研究では評価の指標の作成も試みた。より具体的に、数値的な目標（「5人以上にインタビュー」等）も取り入れて客観的に評価できるようにした。そのため、6学年の3クラスの学級担任は、「同じ指標で評価できる」というよさを挙げており、評価に係る教師間の共通理解が図れるようになった。

(2) 指導と評価の一体化を図る工夫について

ア 目指す姿の共有化

資料1 振り返りカード（一部抜粋）

【児童用】振り返りカード（6年生） Class ____ No. ____ Name ____			
Lesson 3 I can swim. できることを紹介しよう			
ア	英語やジェスチャーなどを使って、友達や先生に積極的に関わろうとする。		(コミュ)
イ	英語の音声や表現を、聞いたり言ったりする。		(慣れ)
ウ	外国や日本の文化や人々の相違に気が付く。		(気付き)
月/日	目標（下は4-3-2-1で評価）	<input checked="" type="radio"/> ① 自分	<input checked="" type="radio"/> ② 友達
↑	・動作を表す語や、「できる」「できない」という表現を言えるようにしましょう。	①	
↑		-----	
↑	ア	イ	ウ
↑			②
↑			-----

【ALT用】振り返りカード Class ____ No. ____ Name ____			
Lesson 3 I can swim. できることを紹介しよう			
ア	英語やジェスチャーなどを使って、友達や先生に積極的に関わろうとする。		(コミュ)
イ	英語の音声や表現を、聞いたり言ったりする。		(慣れ)
ウ	外国や日本の文化や人々の相違に気が付く。		(気付き)
月/日	目標（下は4-3-2-1で評価）	Goal / Activities	
↑	・動作を表す語や、「できる」「できない」という表現を言えるようにしましょう。	Become familiar with vocabulary to describe various	
↑		activities, and the expressions "I can..." and "I cannot..."	
↑	ア	イ	ウ
↑			Let's Play1, Let's Listen, gesture game
↑			-----

【HRT用】振り返りカード（6年生） Class ____ No. ____ Name ____			
Lesson 3 I can swim. できることを紹介しよう			
ア	英語やジェスチャーなどを使って、友達や先生に積極的に関わろうとする。		(コミュ)
イ	英語の音声や表現を、聞いたり言ったりする。		(慣れ)
ウ	外国や日本の文化や人々の相違に気が付く。		(気付き)
月/日	目標（下は4-3-2-1で評価）	評価のポイント（規準・指標）	
↑	・動作を表す語や、「できる」「できない」という表現を言えるようにしましょう。	・「できる・できない」の表現を聞いたり、言ったりしている。	
↑		・スポーツ名などの発音の違いに気づいている。	
↑	ア	イ ○	ウ ○
↑			

資料1 (p. 9) の児童用の振り返りカードには、授業の目標と目指す姿を分かりやすい表現で記載した。児童が記入した振り返りカードを見ると、目標に沿った感想や反省を書いたり、「来週は〇〇したい」など次の活動を見通して自己評価を記入したりしていた。

A L Tにも目標と活動内容を英訳して渡すことにより、自分からインタビューに行けない児童に対して、A L Tから言葉掛けをして支援をしている様子が見られた。

本校では、評価規準を観点ごとに作成していたが、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」では、「積極的に…」という曖昧な表現が多く、H R Tの判断に任せってしまうことが多かった。今回は、具体的な行動や数値でH R Tに提示することができたため、授業の中で児童に示すことができ、A L T・H R Tも含めて目指す姿を共有することができた。

振り返りカードを活用して、児童、A L T、H R Tが目指す姿を共有できたことで指導と評価の一体化が図れたと考える。

イ 課題の設定の工夫

今回は、「Hi, friends! 2」で学習した表現以外にも、「こんなことできるのかな？」と友達に聞きたいことをオリジナルな表現として加えることにした。児童は絵で表し、和英辞典を用いたり、A L Tに聞いたりして表現を確認した。

授業後に、ビンゴシート (資料2) で確認すると、全員が次に示すような、オリジナルな表現を用いて友達に質問することができた。

- Can you do calligraphy / karate / boxing ?
- Can you play golf/ tennis / dodge ball?
- Can you ski /skateboard / fish / jump rope ?

また、「自分で作ったビンゴシートを使って、クラスの友達から〇〇名人を発見することができて良かったです」という振り返りカードへの記入もあり、オリジナルな表現を取り入れたことは、積極的な取組の要因の一つになった。

ウ ビンゴシートへの指標の反映

資料2 に示した本時で用いたビンゴシートには、「①笑顔で、英語 (絵やジェスチャー) を使って積極的に。② 5人以上にインタビュー。」と指標を明示した。振り返りカードには、「5人以上にインタビューできたのでよかった」、「オリジナルでいたビンゴシートの絵を、友達に英語でインタビューすることができてよかった」と書いてあるように、児童も指標を意識して活動に参加できたことがうかがえる。実際にインタビューした人数は、6人から22人と幅はあるものの、平均すると13人に達していた。全員が「5人以上にインタビュー」

資料2 ビンゴシート



という数値での指標を達成できていた。

エ グッバイチャレンジでのフィードバック

HRTは、「Can you ～?」を用い、JTEはオリジナルのイラストを指さしながら「Who ～?」や「How many friends ～?」などの表現を応用して、本時のグッバイチャレンジを行った。全員が正しく答えられており、本単元の表現に慣れ親しむことができたと考えられる。振り返りカードの記入状況も確認し、自己評価が厳しい児童でも、指導者の見取りでは友達と積極的にコミュニケーションを図っていると判断した場合は、児童に自信を持たせたり、認めたりするような言葉掛けをすることができた。

4 課題

「コミュニケーションに関する関心・意欲・態度」の評価の指標をより具体的な数値を取り入れたものとし、客観性を高められるよう試みた。今後は、この数値の妥当性を検証していくことが課題である。

【授業研究2 中学校】

中学校第2学年における自ら考え表現する外国語（英語）科学習指導と評価
一聞き手を意識したスキット活動における、目指す生徒の姿を明確にした
授業づくりを通して一

1 単元について

(1) 単元名 オリジナルスキットを作成し、楽しみながら演じよう

(2) 目標

- 間違いを恐れずにペアで協力してスキット原稿を書く。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて自分の考えや意見を伝える。
(外国語表現の能力)
- 話された内容の要点を適切に聞き取る。
(外国語理解の能力)
- 正しい強勢やイントネーションの違いについて理解する。
(言語や文化についての知識・理解)

(3) 教材観

本単元は、海外旅行をしたときに店で注文する場面を想定しており、英語で注文する際の基本的な表現に慣れるとともに、自分でも使えるようになることをねらいとしている。言語の使用場面は買い物と旅行で、言語の働きとしては、説明する・断る・礼を言うなどが扱われている。また、ファーストフード店やスポーツショップは生徒にとっても身近であり、興味・関心を示しやすい題材である。さらに、店員と客のやりとりという場面設定は、スキット活動に最適である。

(4) 生徒の実態

表1は、英語の学習に関する意識調査である。英語の学習で話すことを苦手としている生徒は全体の33%、話す能力を一番高めたいと考えている生徒は全体の46%、話す活動を増やしたいと考えている生徒は全体の63%であることが分かった。

そこで、生徒の意欲が比較的高い話すことがメインとなる言語活動を設定し、その活動に他の3技能を関連付けることで、生徒のコミュニケーション能力の向上を図りたい。

表1 英語の学習に関する意識調査（平成25年5月28日実施 第2学年120人）

○英語の学習で一番苦手な活動は何ですか。	○英語の学習で一番高めたい能力は何ですか。
・聞くこと：17% ・話すこと：33%	・聞くこと：8% ・話すこと：46%
・読むこと：15% ・書くこと：35%	・読むこと：10% ・書くこと：36%
○授業における話す活動を増やしたいですか。	
・増やしたい：23% ・どちらかと言えば増やしたい：40%	
・減らしたい：11% ・どちらかと言えば減らしたい：26%	

(5) 指導計画（2時間扱い）

時	学 習 活 動	関	表	理	知	評 価 規 準
1	・オリジナルスキットを作る。	○				・間違うことを恐れずに積極的に書いている。（観察） ・正しい強勢，イントネーション，区切りを理解している。（ワークシート）
2 本 時	・リスニングテストを行う。 ・スキットを演じる。		◎		○	・スキットの要点を適切に聞き取ることができる。（ワークシート） ・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて自分の考えや意見を伝えることができる。（パフォーマンステスト）

2 本時の授業

(1) 目標

- スキットの要点を適切に聞き取る。（外国語理解の能力）
- 正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて自分の考えや意見を伝える。（外国語表現の能力）

(2) 主題に迫るための手立て

ア 学習到達目標に基づいた評価の指標の作成

（卒業時の学習到達目標）

積極的にインタラクションできる生徒

（学年の到達目標）

外国語表現の能力	外国語理解の能力
【話すこと】 ・場面や状況に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に話す。 【書くこと】 ・場面等にふさわしい表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを正しく書く。	【聞くこと】 ・まとまりのある英語を聞いて，全体の概要や内容の要点を適切に聞き取る。 【読むこと】 ・まとまりのある英語を読んで，全体の概要や内容の要点を適切に読み取る。

（単元の到達目標）

【話すこと】 ・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて，自分の考えや意見を伝える。	【聞くこと】 ・聞いた内容の要点を適切に聞き取る。
--	-------------------------------------

(本時の到達目標)

【話すこと】 ・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて，自分の考えや意見を伝える。	【聞くこと】 ・スキットの要点を適切に聞き取る。
--	------------------------------------

(本時の評価規準)

【話すこと】 ・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて，自分の考えや意見を伝えることができる。	【聞くこと】 ・スキットの要点を適切に聞き取ることができる。
--	--

(本時の評価の指標)

【話すこと】 ・買いたいもの，サイズ，色，値段について，正しい強勢，イントネーション，区切りを用いて伝えることができる。	【聞くこと】 ・スキットの要点を7割程度聞き取ることができる。
--	---

イ 指導と評価の一体化を図る工夫

(ア) 評価の指標の共有

本時の授業は，JTE 2人とALT 1人の3人によるチーム・ティーチングで行う。事前に評価の指標について3人で共通理解を図り，より妥当性と信頼性の高い評価を導き出す。また，評価の指標をワークシートに記載したり，パフォーマンステスト前に全体で確認したりすることで，目指すべき姿を生徒に明確に示すとともに，リスニングテストやパフォーマンステストに対する意欲の向上を期待する。

(イ) フィードバックの工夫

本時の生徒へのフィードバックは，パフォーマンステスト直後のフィードバック，録音したパフォーマンスを生徒自身が聞くことによるフィードバック及びリスニングテストによる評価の三つの方法で行う。まず，パフォーマンステスト直後のフィードバックは，教師からの助言でよかった点や具体的な修正点を理解し，次のテストに対する意欲を高めることができると考える。次に，録音したパフォーマンステストによる評価は，自分たちのパフォーマンスを直接確認し，教師による評価と自己評価を比較検討することができる。そして，リスニングテストによる評価は，得点が明確になるので，妥当性と信頼性の高いものになると考える。

ウ スキット活動

言語を習得する過程においては，二つの重要なポイントがあると考えられる。第一のポイントは，同じ表現を繰り返し扱うことである。しかし，ただ繰り返すだけでは単にドリルを行うことと同じであり，既習事項からその場で必要な表現を選ぶ力を育むことはできない。既習事項を総合的に運用する練習を通して，その表現をしっかりと記憶するために，同じ表現を何度も繰り返す練習が必要である。第二のポイントは，習得から習熟，最後に活用というプロセスを経ることである。まず，習得

の段階で新出言語材料を学び、次に、習熟の段階で運用方法を練習し、そして、活用の段階で実際に使用する。これらの二つのポイントを満たしている言語活動の一つがスキット活動であり、コミュニケーション能力の育成に効果的である。また、音声でのコミュニケーションをゴールとするため、話す活動を増やしたいと考えている生徒が多い本校の実態からも、有効な言語活動であると考えている。

(7) スキット活動の利点

スキット活動は、教師主導の反復練習ではなく、生徒が自分自身で考え、選択した表現を使う生徒主体の活動であるため、印象も強く残り、言語材料等の定着には効果的である。また、スキット作りの過程では、演技力のある生徒、アイデアが豊富な生徒、文章を作ることが得意な生徒などがそれぞれの長所を發揮し合うことで、お互いが学び合う関係を構築できる。さらに、スキット活動は、発表を伴う言語活動なので、発表の場面において、教師や他の生徒の反応を意識する。そのため、対話を作ることに終始したり英文を読むことに終始したりする活動よりも、意欲的に取り組むことができるのではないかと考える。また、スキットを演じる際には、聞き手に意識を向けることで正しい強勢やイントネーション、区切りに注意するようになり、より質の高い活動が展開できると考える。

(イ) ペア編成の工夫

ペアの編成に関しては、意図的に編成することで、学習効果をより高めることができると考える。これまでは、授業においてペアを編成する際には、隣や前後の生徒と組むことがほとんどであった。しかし、その方法では、英語を苦手とする生徒同士がペアとなってしまう状況も発生してしまい、ペアワークを円滑に進められないこともしばしばあった。そこで、その課題を解決するために、1学期の中旬に教科担当と学級担任が話し合い、友人関係に配慮しながら比較的英語が得意な生徒と比較的英語が苦手な生徒のペア編成を行い、お互いに協力しながら学習できるようにした。

(3) 準備・資料

ワークシート、ICレコーダー、CD

(4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（○は個への配慮）と◎評価
<p>1 既習内容を用いてウォームアップをする。</p> <p>(1) LET' S TALK 自由な雰囲気です英会話をする。</p> <p>(2) THE CHANTS 既習の重要表現を歌とリズムで復習する。</p> <p>(3) FAST INPUT 既習の重要単語を口頭で復習する。</p>	<p>・英語でのコミュニケーションがしやすい雰囲気を作るために、学習ペアと英語でのあいさつと簡単なQ&Aを行う。</p> <p>・雰囲気を盛り上げるために、リズムに合わせて大きな声で歌うよう促す。</p> <p>○英語が苦手な生徒を中心に発音できるよう支援する。</p> <p>・生徒の意欲を高めるために、最高得点を目指すよう助言する。</p>

2 本時の課題を導確認する。

目指せ、スキット名人！

3 リスニングテストを行う。

4 スキットを演じる。

A: Hello. May I help you?
B: Yes. I want to buy a T-shirt.
A: Which color T-shirt would you like, blue, red, or black?
B: Blue, please.
A: Which size T-shirt would you like, small, medium, or large?
B: Medium, please.
A: OK. Would you like anything else?
B: No. That's all. Thanks.
A: OK. That'll be \$15, please.
B: Here you are.
A: Thank you. Here's your change.

5 本時のまとめをとして、ALTとJTEが生徒のパフォーマンスについてフィードバックする。

・目的意識を持って取り組ませるために、評価の指標について説明する。

・生徒の関心を高めるために、友人が演じたスキットをテスト問題として活用する。

◎スキットの要点を7割程度聞き取ることができたか。
(ワークシート)

・パフォーマンスの質を高めるために、正しい強勢、イントネーション、区切りなどを意識して演じるよう助言する。

・評価とフィードバックの手立てとするために、生徒のパフォーマンスを録音する。

◎買いたいもの、サイズ、色、値段について、正しい強勢、イントネーション、区切りを用いて伝えることができたか。
(パフォーマンステスト)

・次のテストへの意識を高めるために、パフォーマンステスト終了直後にフィードバックをする。

・次の単元への意欲を高めるために、本時の意欲ある取組を認めて積極的に称賛する。

3 授業の実際

(1) 学習到達目標に基づいた評価の指標の作成について

今回の授業では、評価の指標を作成し、授業の冒頭で提示したりワークシートに記載したりした。授業後のアンケートでは、「目標をはっきり自覚して活動することができた。」、「具体的な目標が見えるといつもよりやる気が出る。」などの意見が多く見られた。このことは、指標を活用したことで目指すべき目標がより明確になったため、多くの生徒が目的意識を持ってスキット活動に取り組むことができたことを表している。具体的な数値目標などを盛り込んだ指標を作成したことは、自ら考え表現

する外国語（英語）科学習指導として有効であったと考える。

(2) 指導と評価の一体化を図る工夫について

ア 評価の指標の共有

今回の授業では、事前にJTE2人とALT1人の3人で、評価の指標についての共通理解を図った上で授業に臨んだ。その結果、評価のポイントに関して教師間での統一が図られたため、妥当性と信頼性の高い評価へとつながった。また、評価の指標をワークシートに記載したり、パフォーマンステスト前に全体で確認したりすることで、生徒は目指すべき姿をしっかりとイメージして、リスニングテストとパフォーマンステストに取り組むことができた。

イ フィードバックの工夫

今回の授業では、三つのフィードバックを取り入れた結果、多面的に評価することができた。特に、パフォーマンス直後に自分たちが演じたスキットを聞くことは、自分たちのパフォーマンスを客観的に振り返ることができ、次のテストへの意欲や評価の妥当性と信頼性が高まることへつながった。また、録音した今回のパフォーマンスと次回以降のパフォーマンスを比較することで、事後指導にも生かすことができた。このことは、指導と評価の一体化を図ることに有効であったと考える。

(3) スキット活動について

ア スキット活動の利点

本研究では、スキット活動を取り入れたことで、多くの生徒が学習課題に対して主体的に取り組む姿が見られた。特に、スキットを作成して演じる過程では、お互いにアイデアを出し合ったり、評価の指標について確認し合ったりと、積極的に活動していた。これは、スキット活動が生徒主体の活動であること、ペアで学び合う関係を構築することができたこと及び発表を伴う活動であったためと考える。

イ ペア編成の工夫

ペアによる活動に関しては、生徒から「ペアで協力し合って課題に取り組めるのが楽しい」、「分からないところを遠慮なく聞くことができる」、「自分が教えたことをペアが理解してくれたときは嬉しかった」などの前向きな感想が多く見られた。本研究で意図的な編成ペアを導入したことで、生徒が自ら考え表現しようとする意欲を高めることにつながったと考える。

4 課題

本研究では、具体的な数値目標などを盛り込んだ評価の指標を作成したり、フィードバックを工夫したりすることで、指導と評価の一体化を図ってきた。今後は、単元ごとに評価の指標を作成するなど、効果的なフィードバックについてより深く研究していきたい。また、指標に盛り込む数値目標に関しては、学習到達目標と生徒の実態を熟慮して決めることで、より妥当性と信頼性の高い評価へとつなげていきたい。

【授業研究3 高等学校】

高等学校第2学年ライティングにおける自ら考え表現する外国語（英語）
科学習指導と評価

ー学習到達目標を意識したスピーチ活動における，目指す生徒の姿を明確にした授業づくりを通してー

1 単元について

(1) 単元名 Lesson 3 Anything to Drink?

(2) 目標

- 条件を示す表現 (if, unless, as long as など) の使い方を理解する。
(言語や文化についての知識・理解)
- 読んだ英文に基づき，日本文化に関する紹介文を書く。
(外国語表現の能力)
- 書いたものに基づき，日本文化について聞き手に分かるようにスピーチする。
(外国語表現の能力)

(1) 教材観

本単元は，衣類，食べ物，日本文化など様々な事柄に対して英語で説明する表現を学び，それらを自己表現につなげるレッスンである。場面は与えられているものの，基本的には文法シラバスで編成されている。レッスン末にある英作文においては，紹介する日本文化に関する事物などについて，その数・量に関する表現や，条件を示す表現 (if, unless, as long as など) を織り交ぜながら書くことが求められている。言語材料を用いつつ，いかに豊かな内容の英文を書き上げるかが問われる教材である。

(2) 生徒の実態

前課Lesson 2において，「映画のレビューを書く」という学習を行った。これにおいて生徒が書いた作文の総語数を調べたところ，平均約80語であった。語数としてはおおむね満足できるものであった。しかし，作文を書くことに3時間扱いの単元中2時間を要し，生徒の取組が漫然としたものとなっていた。このことは，作文を書く目的や思考・表現の迅速さを生徒に意識させる指導が不十分であったためと考える。そこで，作文をスピーチ活動につなげるという目的とともに，一定時間内で目標とする語数を学習到達目標として明示することで，生徒の自ら考え表現する力の向上を図りたい。

なお，外部の到達度試験結果では，総合的に高校上級程度ないしそれ以上の結果を示している。一方，ライティングについては，高校中級程度のレベルに留まっている。

(3) 指導計画（2時間）

時	学習活動	関	表	理	知	評価規準
1	・新出表現及び重要表現を用いた作文をする。				○	・条件を示す表現 (if, unless, as long as など) の使い方を

					理解している。 (ペーパーテスト)
2 本 時	・ 読んだものに基づき、日本文化に関する紹介文を書く。	○			・ 読んだものに基づき、一定時間内で日本文化に関する分かりやすい紹介文を書くことができる。 (ワークシート)
	・ 書いたものに基づき、日本文化について聞き手に分かるようにスピーチする。	○			・ 書いたものに基づき、日本文化について、聞き手に分かるように部分的に原稿を見ながらスピーチすることができる。 (観察)

2 本時の授業

(1) 目標

- 読んだものに基づき、日本文化に関する紹介文を書く。
- 紹介文に基づき、日本文化について聞き手に分かるようにスピーチする。

(2) 主題に迫るための手立て

- ア 学習到達目標に基づいた評価の指標の作成
(卒業時の学習到達目標)

英語を通じて、社会的な内容についての的確に理解するとともに、その内容について批判的に考え、自らの意見を適切に伝えることができる生徒

(学年の到達目標)

外国語表現の能力	言語・文化に関する知識・理解
【書くこと】 ・ 自分に関わりのある話題について、基礎的な表現を用いて説明を書く。 【話すこと】 ・ 自分が学んだトピックや興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても議論する。	・ 【書くこと】 の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を理解する。 ・ 正しい語順・語法を用いて文を構成する知識を身に付けている ・ 文と文、段落と段落のつながりを示すフレーズを理解する。

(単元の到達目標)

外国語表現の能力	言語・文化に関する知識・理解
【書くこと】 ・ 読んだものに基づき、日本文化に関する紹介文を書く。	・ 条件を示す表現 (if, unless, as long as など) の使い方を理解する。

【話すこと】 ・書いたものに基づき、日本文化について聞き手に分かるようにスピーチする。	
---	--

(本時の到達目標)

外国語表現の能力	言語・文化に関する知識・理解
【書くこと】 ・読んだものに基づき、日本文化に関する紹介文を書く。 【話すこと】 ・書いたものに基づき、日本文化について聞き手に分かるようにスピーチする。	※本時では扱わない。

(本時の評価規準)

外国語表現の能力	言語・文化に関する知識・理解
【書くこと】 ・読んだものに基づき、一定時間内で日本文化に関する分かりやすい紹介文を書くことができる。 【話すこと】 ・書いたものに基づき、日本文化について、聞き手に分かるように部分的に原稿を見ながらスピーチすることができる。	※本時では扱わない。

(本時の評価の指標)

外国語表現の能力	言語・文化に関する知識・理解
【書くこと】 ・読んだものに基づき、20分以内に80語程度で日本文化に関する分かりやすい紹介文を書くことができる。 【話すこと】 ・聞き手の7割が概要のメモを取ることができるようスピーチすることができる。 ・聞き手の6割がクイズに正しく答えることができるようスピーチすることができる。	※本時では扱わない。

イ 指導と評価の一体化を図る工夫

(ア) 評価の指標の明示

生徒が本時の目標を意識して授業に取り組むことができるように、ワークシートにその評価の指標（資料1）を明示するとともに、授業開始時に板書して意識できるようにした。具体的には、語数（80語）を目標に書くこと、時間内に書くこと、スピーチのための原稿であることの3点である。

資料1 評価の指標

**Today's Goal: Write more than 80 words; Finish writing within 20 minutes;
Make a speech in front of people.**

(イ) 段階的な活動の場の設定

話すタスクを行う際に、段階的な活動の場を設定した。ある程度英文が書ける生徒であったとしても、大勢の前で口頭で説明することは高いハードルである。そのため発表を、ペアでの練習→グループでの発表→クラス全体での発表（任意）という順に人数を増やしながら進めた。また、グループおよび全体のスピーチ発表においては、クイズ形式を用いることで、意味に焦点を当てることができるように配慮した。

(3) 準備・資料

ワークシート

(4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（◎は評価）
1 ウォームアップ (1) あいさつとQ&Aを行う。 (2) 日本文化について、英語で生徒と簡単なやりとりを行う。	・英語でのコミュニケーション活動がしやすい雰囲気を作るため、最初に教師が数名の生徒とあいさつやQ&Aを行った後、学習ペアでも行う。 ・日本文化についての簡単なやりとりを生徒と行うことで、本時の課題の導入につなげる。
2 本時の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Introducing Japanese Culture</div>	・ワークシートに明示してある本時の課題とともに、目標と評価の指標についても確認する。
3 教師に続いて英文を音読したあと、Oral Introductionを聞きながら、英文から必要な情報をキーワードとして抜き出して、表にまとめる。	・Oral Introductionでは、キーワードや難しい表現を強調し、英文の内容理解が図れるようにする。

<p>4 “Traditional Japanese Culture”について思い浮かぶことを書き出したあと、口頭でできる限り説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が説明した内容をマインドマップ形式で板書し、英文の内容理解を深められるようにする。
<p>5 自分の説明したい“Traditional Japanese Culture”について表にキーワードでまとめた後、説明する英文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> “Traditional Japanese Culture”について表にキーワードでまとめ、説明する英文を書くよう指示する。
<p>6 ペアで Read and Look up を行い、その後グループ内で、スピーチを発表する。発表後に、どんな日本文化についてのスピーチなのかについて Q & A を行う。</p>	<p>◎読んだものに基づき、20分以内に80語程度で日本文化に関する分かりやすい紹介文を書くことができたか。 (ワークシート)</p>
<p>7 数名の生徒が、クラス全体に対して、スピーチを行う。発表後に、どんな日本文化についてのスピーチなのかについて Q & A を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにメモをとりながら他の生徒の発表を聞き、答えも記入するよう指示する。(ワークシート)
<p>7 数名の生徒が、クラス全体に対して、スピーチを行う。発表後に、どんな日本文化についてのスピーチなのかについて Q & A を行う。</p>	<p>◎聞き手の7割が概要のメモを取ることができるようスピーチすることができたか。(ワークシート)</p>
<p>7 数名の生徒が、クラス全体に対して、スピーチを行う。発表後に、どんな日本文化についてのスピーチなのかについて Q & A を行う。</p>	<p>◎聞き手の6割がクイズに正しく答えることができるようスピーチすることができたか。(ワークシート)</p>
<p>7 数名の生徒が、クラス全体に対して、スピーチを行う。発表後に、どんな日本文化についてのスピーチなのかについて Q & A を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表した生徒のパフォーマンスを称賛することで、生徒の意欲を高める。
<p>8 自己評価を記入し、振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を落ち着いて振り返ることができるように、言葉掛けをする。

3 授業の実際

(1) 学習到達目標を基にした評価の指標の作成について

卒業時の学習到達目標を基に、学年の到達目標、単元の到達目標、本時の到達目標という順序で設定していくことで、目指す生徒の姿をより明確にした目標設定ができ、その目標達成に向けた活動内容を取り入れた授業づくりを意識できるようになった。

(2) 指導と評価の一体化を図る工夫について

ア 評価の指標の明示について

ワークシートに評価の指標を明示したことにより、生徒がこれまでより作文の目的や字数と時間を意識して活動に取り組むことができた。ワークシートの

記録から、生徒の書いた英文における総語数は平均72語であり、前課の半分の時間であったにも関わらず、「書くこと」の目標を達成することができた。伝わったかどうかの指標である聞き手のメモの状況については、生徒の88%がその内容についてメモを取ることができた。

授業中の行動観察からは、制限時間を設定したことで、まず、聞き手に伝えたいポイントを押さえ、その後指標に明示されている語数に達するように語句や文を付け加えていく様子が見られた。スピーチにおいても、指標を意識して、聞き手に伝わるように話す様子が見られた。資料2に語数の増加及び下線部のように聞き手を意識した表現の使用等の変容が見られた生徒の英作文の例を示す。

資料2 事前と事後の生徒の作文の変容例

事前	Lesson2 Movie Review (44 words)
Write - Write your own review. Try to use key expressions on page 29.	
<p>Spirited Away is a fantasy story. Chihira, a elementary school student, come to another world, and she meet many ghosts.</p> <p>The movie is sometimes too grotesque. However, the sound effects are impressive and the movie's end is very touching. It's good enough to see twice.</p>	
事後	Lesson3 Traditional Japanese Culture (72 words)
Write	
<p>A sensu called folding fan in English is a kind of fan. Folding fan are used in a hot and humid day. They are very useful because they don't use electric power. And They are very beautiful because they have a lot of designs, for example, flowers, Chinese characters and beautiful patterns and so on.</p> <p>A lot of gift sell folding fans. So why not try one when you stay in Japan.</p>	

イ 段階的な活動の場の設定について

5人の生徒が自主的にクラス全体に向けてスピーチを行った。このことは、ペアでの練習とグループでの練習の段階で内容を伝える体験を繰り返したことにより、クラス全体に向けてスピーチをすることへの抵抗感が減少したためと考えられる。このように、発表に対して消極的な状況を改善することができる段階的な活動の場を設定したことは、自ら考え表現する外国語（英語）科学習指導として有効であったと考える。

4 課題

学習到達目標や評価規準、評価の指標、指導方法のそれぞれについて継続的に検討を行い、それぞれの妥当性、信頼性をより高められるようにしていきたい。

3 研究のまとめ

外国語活動・外国語（英語）科では、研究主題「自ら考え表現する外国語活動及び外国語（英語）科学習指導と評価」に迫るために、学習到達目標に基づいた評価の指標の作成及び評価の指標を用いた指導と評価の一体化を図る工夫を通して研究を進め、県内小学校1校、中学校1校、高等学校1校で授業研究に取り組んだ。

以下、研究の取組から本研究についての主な成果と課題を述べる。

(1) 成果

ア 学習到達目標を基にした評価の指標の作成について

- ・卒業時の学習到達目標を設定し、それに基づき学年、単元、本時と学習到達目標を設定したことで、目指す児童の姿が明確になった。このことにより、活動内容が目標達成のためにより適切なものとなった。また、評価の指標を作成したことにより、職員間の共通理解を図ることができた。（小学校）
- ・具体的な数値目標などを盛り込んだ評価の指標を作成したことで、目標が明確になり、生徒がスキット活動に意欲的に取り組むことができた。生徒から「目標をもって活動することができた。」、「具体的な目標が見えるとやる気が出る。」などの意見が多く出された。（中学校）
- ・学習到達目標と評価の指標を明示したことで、活動の目的をより強く意識し意欲的に取り組むことができた。（高等学校）

イ 評価と指導の一体化について

- ・評価の指標を反映させたワークシートと振り返りカードを用いることで、グッバイチャレンジにおいて、児童一人一人に適切なフィードバックを行うことができた。（小学校）
- ・意図的なペア編成によるスキット活動は、生徒が自ら考え表現する意欲を高めることにつながった。また、複数の方法での評価とフィードバックを取り入れたことで、生徒が自ら考え表現する力と評価の妥当性及び信頼性が高まった。（中学校）
- ・具体的な数値を盛り込んだ評価の指標を明示したことは、生徒と教師が目指す姿を共有することに効果があった。また、学習到達目標の達成に向けて、段階的な活動の場を設定したことにより、生徒の英作文数が増加し、自ら考え表現する力の高まりが見られた。（高等学校）

(2) 課題

学習到達目標に基づいた評価の指標を用いた、より効果的な指導と評価の一体化の在り方及び評価の指標に盛り込む数値目標の妥当性、信頼性をより高める方法について研究する。

<引用文献>

- 文部科学省 「小学校学習指導要領」 平成20年 3月
文部科学省 「中学校学習指導要領」 平成20年 3月
文部科学省 「高等学校学習指導要領」 平成21年 3月

関係者一覧

1 研究協力員

日立市立大久保小学校	教諭	大森 真理
高萩市立高萩中学校	教諭	和田 真一
県立水戸第一高等学校	教諭	矢野 賢

2 茨城県教育研修センター

所長	武井 一郎
教科教育課 課長	金子 敏久
同 指導主事	倉本 明